

平成25年度 年報



【平成25年11月 モデル事業地における除伐Ⅱ類作業の様子（七飯町／吉野山国有林）】

森林ふれあい推進センターは、

国有林野を活用し、自然再生や生物多様性の保全に取り組むNPOや森林環境教育に携わる教育関係者等の活動を技術的に支援する組織として、平成16年4月に設置されました。



国民の森林・国有林

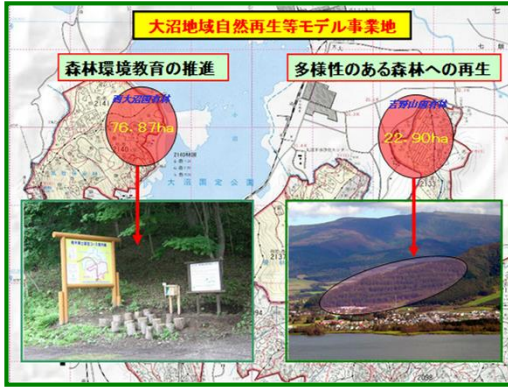
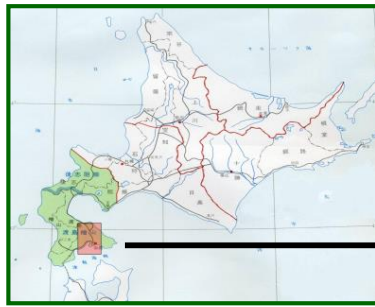
林野庁 北海道森林管理局
駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター

大沼地域自然再生等モデル事業の取組

モデル事業地は、大沼国定公園エリアに所在し、漁業関係者から水質保全、観光関係者から景観の維持向上、自然保護関係者から鳥獣生息環境の維持向上等が強く求められているなど、環境保全や森林整備に係る関心や期待の高い地域となっています。

このため、モデル事業の推進について、自然保護関係者や民間ボランティア団体等の代表者で構成する検討委員会を開催し、モデル事業地の箇所を選定、森林の取り扱い、事業の推進方法等についてのグランドデザインを作成するとともに、地域等が大沼地区の国有林に求めているニーズをモデル事業に反映するよう努めることにしています。

「大沼地域自然再生等モデル事業」は、地域住民等と連携し、「多様性のある森林への再生」と当該地及び近接地において「森林環境教育の推進」を主とし、取り組みを進めることとしています。



- ＝ 検討委員会 ＝
- 平成16年度
グランドデザイン作成ために3回実施。
 - 平成17年度～平成25年度「グランドデザイン」に基づく事業内容の検証及び検討のため年に2回実施。

協議会の様子（平成25年5月27日）



☆ 「大沼自然豊かな森づくり協議会」の開催

平成25年5月27日（月）、南北海道大沼婦人会館（七飯町）において、16名の委員が参加し第9回「大沼自然豊かな森づくり協議会総会」を開催しました。宮崎会長を議長に、平成24年度の実行内容、25年度の計画と実行体制について事務局より提案の後、討論を行いました。

委員からは、「発足10年経過したことであり、森林への再生を目で見える取り組みを強化すべき」、「各種植生調査の継続化を」などの意見が出されました。併せて、役員体制については全員が再任され、今後も会長を中心として、自然再生等の各種事業実行に当たり、お互い協力・連携を図りながら取り組むことを確認し総会を終了しました。

★当協議会は、大沼地域自然再生等モデル事業のグランドデザインに基づき、森林の再生活動を行うことを目的として平成17年4月に組織されたものです。

協議会参加団体等名
大沼漁業協同組合
大沼町内会連絡協議会
大沼の水と緑を守る会(NPO)
大沼マイルストーン22(NPO)
北海道森林鳥類調査室クマガウ研究会(NPO)
函館地方国有林退職者緑の募金推進協議会
21世紀の道南の森林づくり事業実行委員会
個人会員及び関係行政機関

☆ 多様性のある森林への再生

大正14年植栽ドイツトウヒ人工林と昭和56～58年植栽トドマツ人工林、及び昭和27年度植栽カラマツ人工林の22.90haの森林を、地域ニーズを踏まえた生物・水質・景観など多様性のある森林へ誘導します。【具体的には、周辺の天然林を参考とした森林へと育成します】



「多様性のある森林への再生」箇所において、様々な取り組みを行っています。平成25年度の主な実施内容は、次のとおりです。

「下刈作業」の実施

平成25年7月22日（月）、大沼地域自然再生等モデル事業の「多様性のある森林への再生箇所」において、大沼自然豊かな森づくり協議会の参加団体から総勢19名により、下刈作業を実施しました。

作業地は吉野山国有林（七飯町）のドイツトウヒ伐採跡地で、平成18年にミズナラやトチノキの実を播種した箇所を実施。苗木は2メートルを超える雑草に覆われており、参加者は雑草をかき分け、苗木を切らないよう慎重に鎌を振り、作業を行いました。



「国際ワークキャンプ」の受け入れ

「国際ワークキャンプ」とは、世界中から集まった若者が一緒に生活しながら、「森林の手入れ」、「動植物の保護」、「有機農業の支援」、「学校の建設」など地域での環境ボランティア活動を行う「国際ボランティアプロジェクト」で、世界約100か国、約3,000箇所で行われています。日本では国際ボランティアNGOのNICE(ナイス)が「国際ワークキャンプ」の企画、運営、参加者の募集等の事務を行います。日本各地に協力団体があり、北海道では函館市にある「北海道国際交流センター」が受皿団体になっています。

当ふれあい推進センターでは、吉野山国有林（七飯町字大沼）で実施している「大沼自然再生等モデル事業」において、自然再生等への取組の一環として、各種森林ボランティア活動の機会を提供しています。今年は、イタリア、フランス、メキシコ、ドイツ、ロシア、台湾、韓国、香港、日本など9カ国、22名の20代を中心とした若者が、ここ大沼に集合しました。

当センターが担当する”森林ワーク”では、7月23日から9月4日までの12日間、下刈や歩道修理などの作業をサポートしていただきました。

キャンパーに概要説明



作業終了後、集合写真



PHOTO

下刈作業



ランチタイム



道路維持作業



検討委員会の開催

平成25年5月20日（月）に、大沼地域自然再生等モデル事業の箇所（吉野山国有林2133林班）について、各委員16名の参加のもと、「第1回大沼地域自然再生検討委員会」を開催しました。議題は平成25年度以降の自然再生等モデル事業について意見交換を行いました。各委員から出された貴重なご意見をモデル事業に最大限反映させるよう取り組んでいく予定です。

第1回



除伐Ⅱ類作業の実施

平成25年11月18日（月）に、大沼地域自然再生等モデル事業の箇所（吉野山国有林2133林班）にて、総勢31名の参加のもと、除伐Ⅱ類作業を実施しました。当日は、悪天候のなかでしたが、4班に分かれて作業を実施しました。初参加者から「大変疲れたが、心地よい汗を流しました。またこのようなイベントがあれば是非参加したい」という感想を聞くことが出来て大変有意義な一日となりました。

ボランティア除伐



☆ 森林環境教育（樹木博士認定会）の推進

西大沼国有林の**樹木博士認定常設コース**（平成16年10月オープン）を拠点とし、森林に対する関心と理解の醸成を図る活動を実施しています。

具体的には、森林環境教育の指導者の養成等のための**樹木博士認定会**の開催や研修会等を実施し、森林環境教育を推進します。また、多様性のある森林への再生活動（吉野山国有林）においても森林環境教育を実施することとしています。



樹木博士認定会とは

樹木の名前や識別方法を学習した後、樹木名を答える試験を行うもので、それをきっかけとし、森林に親しんでもらうことを目的とした森林環境教育（アウトドア活動プログラム）のひとつです。

樹木博士認定コース

子ども樹木博士認定活動推進協議会（平成12年設立 現会長：木平勇吉東京農工大学名誉教授）のプログラムを採用し、平成16年には、この活動を地域に広めることと森林環境教育に関する指導者の養成を図るための活動の拠点として、誰でもいつでも利用できる「常設コース」を大沼国定公園内の西大沼国有林（七飯町）に開設し、対象者を子ども達だけではなく一般にも広げ、毎年**定期的（年4回）**に開催しています。



進め方

1時間程度の樹木の説明を受けた後、樹種名（20～30種）を答える試験を行い成績に応じて段級（**最高位は10段**）を与え、認定書を授与します。



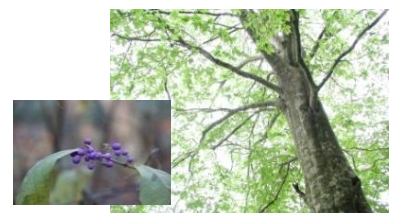
コース概要

- ◆ コースの距離 事前学習コース [450 m]
テストコース [390 m]
周 遊コース [2050 m]
- ◆ 試験 樹 種 46種（ブナ・ミズナラ・スギなど）



左写真はセンターで作成した「樹木ガイドブック／全70ページ」（平成23年3月発行）

このガイドブックにより、樹木の説明を行います。



平成25年度の樹木博士認定会の取組については、公募により6月、7月、8月、9月の4回の定期開催を実施しました。また、より多くの挑戦者の参加を期待して、函館市教育委員会で取り組んでいる生涯学習講座「HAKODATEまなびっと広場」に参画し、選択科目の一つとなっています。

定期開催の開催結果の内容については、次のとおりです。

第1回開催



第2回開催



第3回開催



第4回開催



本年度の定期開催の参加者総数は38名であり、そのほとんどは大人の常連者であることから、子ども（教育機関等）への働きかけが必要となっています。

● 定期開催結果

回数	認定会日時	参加者	内 訳
第1回	6月 2日(日) 10:00~12:30	12人	子供1、大人11
第2回	7月 7日(日) 10:00~12:30	9人	子供1、大人 8
第3回	8月 4日(日) 10:00~12:30	6人	子供0、大人 6
第4回	9月 8日(日) 10:00~12:30	11人	子供0、大人 11

● その他開催

森林への誘い講座・ジュニアリーダーコース・江差北小グリーンスクール	98人	子供40、大人58
-----------------------------------	-----	-----------

● 樹木博士認定状況

25年度末 累計	2,094人 (平成12年度の旧函館分局から行ってきた計です)
----------	---------------------------------

☆ 森林づくり塾2013 開校

目的

森林の役割や森林づくりの基礎を学び、実際の森林作業を体験することにより、森林作業の技術の習得、また、森林の中での楽しみ方を体験し、理解を深め、森林ボランティア作業への参加意識の醸成と森林環境教育のリーダー的存在となりうる人材の育成を目的としています。

森林づくり塾の取組については今年度で7年目となります。参加者は公募を行った結果、函館市近郊から26名となり、森林作業を中心とした全6回の講座を実施しました。

各講座の実施内容については、次のとおりです。

第1回講座

第1回は、講師に北海道アウトドアガイドの自然観察指導員 木村マサ子さんを招き「春の草本類の観察会」を立待岬、函館山七曲り登山コース等において実施し、スミレの見分け方を学習しました。



第2回～第4回講座

第2回は、カリマ国有林で「ミヅウの補植作業」を体験。第3回、第4回は、カリマ国有林で「下刈作業」を実施して、その目的・効果などを学習。参加者が少なめでその分大汗を流しました。



第5回講座

第5回は、森林体験としてトドマツ人工林の「除伐Ⅱ類作業」を実施して、その目的・効果を学習しました。



第6回講座

第6回（最終）は、渡島森林管理署 坂本総括治山技術官を講師に招き「駒ヶ岳治山施設」について学習しました。その後、バスの車内で修了証書の授与を行い、本年度の全講座を終了しました。



☆ 自動撮影装置による野生動物調査

自動撮影カメラの設置

当センターでは、大沼周辺(七飯町)の森林における野生動物(中大型哺乳類等)の生息調査を実施しています。

- 調査目的・・・野生動物の生息状況を長期的に記録し、その変化と環境の変化とのかかわりを研究する。
- 調査方法・・・自動撮影装置(カメラ)による撮影(焦電型赤外線センサーに反応する動物を撮影)
- 調査時期・・・年2回(夏、秋)実施



PHOTO



タヌキ



エゾフクロウ



エゾリス



エゾシカ



ヒグマ



キツネ

☆ 森林環境教育

🌲 はこだて花と緑のフェスティバル2013に参加

平成25年6月22日（土）・23日（日）、JR函館駅西口横（大手町）において、「はこだて花と緑のフェスティバル2013」が開催されました。当ふれあいセンターはその両日に参加し、自然再生モデル事業の活動、森林環境教育の取組、森林で見られる花や動物の写真を「パネル展示」で紹介したほか、「函館の森林の再生と活用を考える会」の協力を得て「木工工作体験（鳥の巣箱作り）」を行いました。

当センターのブースでは、パネルを見学したり、親子で巣箱作り体験を行うなどたくさんの人々で賑わいを見せ、たいへん有意義な2日間となりました。



🌲 青少年の体験活動推進事業「ジュニアリーダーコース」の支援

平成25年7月30日（火）、北海道教育委員会が主催する青少年体験活動推進事業「ジュニアリーダーコース」が実施され、当ふれあいセンターは西大沼国有林で樹木博士認定会の開催による支援を行いました。

ジュニアリーダーコースとは、道南の歴史や産業、自然等を学び、地域活動やまちづくりに主体的に参画する青少年を養成することを目的とした研修で、中学生と高校生の計22名がこの研修に参加しました。

当日は、樹木博士認定常設コースにおいて20種類の樹木の学習を行い、樹種名を覚えた後、認定テストを実施しました。参加者からは、「今まではすべて同じに見えていた木が、区別できるようになって良かった」などの感想が寄せられました。



🌲 檜山森林管理署（厚沢部町）主催「グリーンスクール」に協力

平成25年9月19日（木）、江差北小学校を対象とした、檜山森林管理署主催「グリーンスクール」が砂坂海岸林で開催され、当ふれあいセンターは5・6年生を対象とした子ども樹木博士を担当しました。児童たちは、海岸林に生息する樹木の解説に真剣に聞き入っていました。その甲斐あって、解説後の試験では、多くの全問正解者が出ました。

海岸林には実のなる木の種類が多く、これらが食べられるかどうかを気にする児童も多かったことから、樹木解説の際に可食／有毒などの説明をする場面もあることに気づかされました。



🌲 「道民森づくりネットワークの集い」に参加

平成25年10月19日（土）、道庁赤レンガ庁舎前庭（札幌市中央区）を会場に「道民森づくりネットワークの集い」が開催されました。

当センターからは、今年度実施した「大沼地域自然再生等モデル事業」「森林環境教育」などの取組や、駒ヶ岳・大沼の自然を紹介するパネル展示し、活動内容や国有林を取り巻く自然環境のPRを行いました。



🌲 渡島東部森林室主催「森への誘い講座」を支援

平成25年10月23日（水）、渡島総合振興局渡島東部森林室主催「森への誘い講座」が、七飯町の樹木博士認定常設コース（西大沼国有林）で開催され、当センターは樹木博士認定会の開催による支援を行いました。

当日は、参加者28名の熱心に勉強する姿勢や、自然を満喫し楽しむ風景が見られるなど、それぞれが充実感をもって終了することができました。



🌲 亀田港児童館母親クラブの森林教室開催を支援

平成25年11月3日（日）、函館市亀田港児童館母親クラブ主催の森林教室が行われ、当ふれあいセンターは4名の講師による支援を実施しました。

当日は、朝からあいにくの雨模様でしたが、小学生7名を含む17名が参加しました。

七飯町西大沼国有林の樹木博士常設コースは既に紅葉シーズンが終わりかけていましたが、落ち葉の中の森林散策を行い、トチノキの実を拾ったり、ときには葉っぱで飛行機を作り、参加者はそれぞれ秋の森林を楽しんでいました。



🌲 北の国・森林づくり技術交流発表会(森林ふれあい部門)で発表

平成26年1月30日（木）と31日（金）、札幌市中央区かでの2・7において北海道森林管理局北の国・森林づくり技術交流発表会が開催されました。

当ふれあいセンターからは、「木の名前を覚えよう～『樹木博士認定会』の取り組みについて～」と題し、これまで10年間実施してきた樹木博士認定会の開催状況、実施手順、課題等を取りまとめた発表を行いました。永年取り組んできたこれらの実績が評価され、当センターの発表課題は森林ふれあい部門で最優秀賞を受賞することができました。



平成25年度の活動一覧

年月日	曜日	実施内容
H25.5.19	日	森林づくり塾第1回
H25.5.20	月	大沼地域自然再生等検討委員会を開催
H25.5.26	日	森林づくり塾第2回(カリマ国有林)
H25.5.27	月	大沼自然豊かな森づくり協議会の総会を開催
H25.6.2	日	樹木博士認定会第1回(西大沼国有林)
H25.6.7	金	「有斗高校 希望の森づくり」下刈作業を支援(カリマ国有林)
H25.6.13	木	「柏稜高校 永久の森づくり」下刈作業を支援(カリマ国有林)
H25.6.16	日	森林づくり塾第3回(カリマ国有林)
H25.6.22	土	はこだて花と緑のフェスティバル2013に参加
H25.6.23	日	はこだて花と緑のフェスティバル2013に参加
H25.7.4	木	(~H25.8.1)野生動物自動撮影調査(カリマ国有林)
H25.7.7	日	樹木博士認定会第2回(西大沼国有林)
H25.7.23	火	(~H25.9.4)国際ワークキャンプ(吉野山国有林)
H25.7.28	日	森林づくり塾第4回(カリマ国有林)
H25.7.30	火	ジュニアリーダーコース「環境コース」で樹木博士認定会による支援(西大沼国有林)
H25.8.4	日	樹木博士認定会第3回(西大沼国有林)
H25.8.25	日	森林づくり塾第5回(軍川国有林)
H25.9.5	木	(~25.9.26)野生動物自動撮影調査(カリマ国有林)
H25.9.8	日	樹木博士認定会第4回(西大沼国有林)
H25.9.19	木	江差北小学校の森林教室「グリーンスクール」で樹木博士認定会(砂坂国有林)
H25.10.6	日	森林づくり塾第6回(鹿部・駒ヶ岳国有林)
H25.10.18	金	檜山古事の森十周年記念行事を支援(楸川国有林)
H25.10.19	土	道民森づくりネットワークの集いで情報発信パネル展示
H25.10.23	水	渡島東部森づくりセンター「森への誘い講座」で基本講座の支援(西大沼国有林)
H25.10.29	火	国の華幼稚園で北海道森と緑の会ドングリ運動を支援
H25.11.3	日	亀田港児童館母親クラブ森林教室を支援(西大沼国有林)
H25.11.18	月	大沼自然豊かな森づくり協議会による保育間伐を開催(吉野山国有林)
H26.1.21	火	(~H26.2.4)野生動物自動撮影調査(吉野山国有林)
H26.1.30	木	北の国・森林づくり技術交流発表会で樹木博士認定会の活動について発表
H26.2.13	木	職員を対象とした冬芽観察会(西大沼国有林)
H26.3.10	月	大沼地域自然再生等検討委員会を開催

主な活動実施区域



西大沼 (にしおおぬま) 国有林



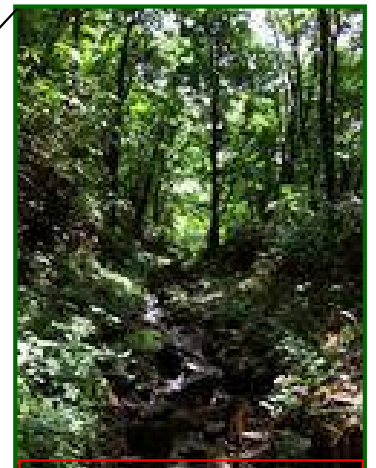
駒ヶ岳 (こまがたけ) 国有林



砂坂 (すなさか) 海岸林



函館市



カリマ国有林



椴川 (とどがわ) 国有林



茂辺地 (もへじ) 国有林



吉野山 (よしのやま) 国有林



林野庁 北海道森林管理局
 駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター

所在地 〒042-8550
 北海道函館市駒場町2-13

電話 0138-51-0381
 FAX 0138-51-8178

E-mail h_koma_f@rinya.maff.go.jp

ホームページ http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/komagatake_fc/